

第3章

生い立ち・生活信条

— 単身になった経緯を中心に —

岸 佑太

1 本稿の目的

本稿では、調査対象者（以下：対象者）16名の生い立ちに対して眼差しを向け、その生い立ちから現在までの経験、またそこから導き出された調査対象者の生活信条に着目¹⁾していくことで、単身高齢者の生活実態の一端を明らかにしていく。

J. M. エリクソンは共著（Erikson and Erikson 1997）の前書きにおいて、8段階に及ぶ人生のライフサイクルを発表間際まで7段階であった旨を記している。当初は（完結のステージである）第7段階であった「老年期」の前に位置するステージとして「生殖性 対 停滞」を設け、エリクソンのライフサイクル概念は完成した。彼らは完結する第8ステージを形容する言葉として「英知」と「統合」を選択する。少々割愛するが、彼らは「英知」という言葉を掘り下げ、その語源が「見ること、知ること（veda）」であるということを知る。人は「veda²⁾」によって、過去を振り返り（look back）期待を込めて将来を見る（look forward）。すなわち、身体的に何不自由なく見ることができる限り、私たちは過去を振り返り、そこから英知を築くことが可能である。また、「統合」の語源は「触覚（tact）」³⁾である。人は

1) 生い立ちから現在までの経験及び生活信条に関する聞き取りは巻末資料2を参照。

2) サンスクリット語で、「知識」を意味する。詳細は、Erikson and Erikson [1997：増補版まえがき（増補版）：10-11]を参照。

3) 他に機転、手腕、こつetc.の意味を有する。「tact」の派生語として、「触れ合い(contact)」、「手つかずの(intact)」、「つなげる(tack)」、「触れる(touch)」などがある。詳細は、前掲書[まえがき（増補版）：13-15]を参照。

コンタクト
触れ合いなしには成長はなく、生きられない。すなわち、「英知」と「統合」とは、あらゆる関係の中で「視覚」と「触覚」を働かせながら生きていく感性であるとされ、また、ライフサイクル諸段階の全ての強さと同様に発達し続ける能動的なプロセスであると説明されている⁴⁾。

生い立ちから現在に至るまでの過去に関する語りは、各人のライフストーリーでもある。本文を見るとわかるように、「過去の思い出」というものは時代の移り変わりとともに、誰も記憶から色褪せていくものである。故に、それは決して全てが正確なものではないであろうと推察できる。また、そのような記憶には喜怒哀楽を含め、様々な感情が入り混じっているということは言うまでもない。人前に出せる話や私たち調査員に語れる話は対象者の記憶の一部にすぎないとも言える。しかし、対象者の「今」を構成し、「今」に彩りを与えているのは、記憶にとどめている経験豊かな対象者の「過去」が存在するからである。その意味では、対象者の語る「過去」(look back)へのまなざし、そしてそれを紡ぎ取ることは、「今」そして「今後の展望」(look forward)へと繋がっていくと言えるのではないだろうか。

本稿は、エリクソンが示した「英知」と「統合」という老年期の能動的なプロセスをどのように営んでいくのか、そのヒントを生い立ちから現在に至るまでの対象者の過去に眼差しを向け、そこから垣間見える対象者自身による回顧から探っていき、単身状態に置かれた経緯と心情に触れることによって単身高齢者の実態に迫っていきたい。生い立ちから現在までを本章において振り返り、現在の関係性から紡ぎ出された生活信条までを概観した上で、第8章において「これからの生活」を見ていきたい。

2 山科区における単身高齢者の概要

本調査に先駆けて行われた、「地域に一人で暮らす高齢者の問題—単身高齢者の生活実態に関する調査結果」(山科区第2期地域福祉活動計画策定委員会：委員長、津止正敏教授)における調査報告(以下、山科調査報告)に

4) 前掲書 [まえがき (増補版) : 16] より。

よると、山科区の高齢化率は18.9%（京都市平均：20.1%）であるが、近年その比率を高めている。山科区における単身高齢者（世帯）は65歳以上の19.7%（5077人）を占める。山科調査報告において行われたアンケート調査によると、単身生活期間は「10年未満」が37.7%、「10—20年未満」は28.3%、「20年以上」が29.8%となり、その平均期間は29.4年と長い。居住歴は「引越してきた」が93.9%、「生まれたときから住んでいる」が2.0%と低い。山科調査報告は考察として1.「地域に一人で暮らす高齢者」が増えている、2. 75歳以上の単身高齢者の約3割が要支援・要介護の状況で暮らしている、3. 男性の単身高齢者に「孤立化」の傾向が著しい、4. 地域の実情と高齢者のニーズに即した「地域プログラム」を開発する、の4点を問題・課題とした。

厚生労働省及び内閣府の調査を見ても⁵⁾「減る同居」、「増える近居」とあるように、子を持つ単身高齢者は子どもと別居をすることで単身生活になっているケースが多いことがわかる。

3 調査結果

以上を踏まえたうえで、本調査の具体的な結果を見ていきたい。表1は、調査結果の概要を示したものである。対象者の属性（調査時：以下同）は、55歳から92歳（平均81.2歳）、女性13名、男性3名（総計16名）となっている。13名の対象者が「単身生活になったきっかけ」について明確に発言をした。内11人は「死別」が要因であり、1名「離婚」の方がいた（4名は不明）。単身生活歴を見ると最長が40年で最短が12年、不明の4名を除いた平均単身生活期間は24.3年となっている。また、結婚（配偶者との生活）経験は13名が有しており、2名は結婚経験を有していない（1名は不明）。現住所における生活期間は最長が55年、最短が2年となっている（9名は不明）。

5) 巻末資料1を参照。

＜表1＞調査対象者の概要

	年齢 (歳)	性別	(現住所) 在住歴 (年)	(配偶者との同居経験) 結婚経験	単身生活になった きっかけ	単身生活歴 (年)
A	81	女	NA	あり	離婚	28
B	88	女	50	あり	死別	25
C	82	女	NA	あり	死別	23
D	81	女	40	なし	NA	40
E	91	女	55	あり	死別	30
F	82	女	2	あり	NA	20
G	86	女	35	あり	死別	33
H	82	女	NA	あり	死別	17
I	55	男	NA	なし	NA	NA
J	84	女	35	あり	死別	12
K	78	女	NA	あり	死別	15
L	87	女	NA	あり	死別	27
M	91	女	22	あり	死別	18
N	70	男	NA	NA	死別(母)	25
O	92	男	2	あり	NA	NA
P	69	女	NA	あり	死別	NA

(注1：年齢・在住歴は調査時のもの)

(注2：「死別」は特記がない限り配偶者との死別とする)

(1) 単身生活になったきっかけ

- ・ A：はい。で、離婚したのは私、53歳の時です。調停離婚してます。
- 調：はい。(a-3)⁶⁾
- ・ 調：では、53歳から一人暮らし、ということですよね？
- A：そうです。はい。

6) (a-3)は巻末資料2の「Aさんの語りより引用」の意味(以下同)。

- 調：やっぱそのときのことが、あ、もう辛いですかね？辛かったというと。
- A：そうやねえ。まあ、辛いっっちゃうよりもスツとしたねえ。(a-3)
- ・調：ご主人とお別れになった…あの、亡くなられたのは？
- B：あのね、69歳でね、亡くなりました。
- 調：ご主人のほうが69歳ですか？
- B：うん。昭和何年だろう…58年くらいかな？59年？
- 調：Bさんは何歳でしたか？
- B：64歳。
- 調：5歳違いですか。
- B：そうそう、5歳違い。…59年か。計算して。私が…ええと、1919年生まれですからね。
- 調：61歳というのと、・？
- B：私64歳で…58年かな？
- 調：もう亡くなって20年ぐらい？
- B：25年。(b-1)
- ・C：主人が私59のときに亡くなって、で、ここで一人になりましたやろ。(c-2)
- ・D：ここに住んでからはもう40年ほどになります。(d-1)
- ・調：おいくつのときにお亡くなりになったんですか？
- E：だんなねえ、73でしたわ。私が60いくつやから。嫁にすることもできやませんやん。
- 調：んん…40年間一緒に暮らしたんですね。(e-1)
- ・調：いつから一人くらしはなさってるんですか？
- F：もーう、何十年も。結婚して…死んでから、そのままもう20年も。(f-2)
- ・調：ご主人、ご主人が57歳で亡くなった時は奥さんは何歳やったんですか？
- G：3つ違いですんねん。(g-2)
- 調：そしたら54歳？
- ・調：75歳でお亡くなり。今から何年前ですか？
- J：だから12年前。(j-3)
- ・調：うんうん
ご主人はいつぐらいにお亡くなられたんですか。
- K：えっと、私もほけてきて、7…6、76歳ぐらいですかね、
- 調：まあ平均的な人生ですね。
- K：そうですね、兵隊にも行ってましたから。軍隊にね。
- 調：15年ぐらいお一人…65ぐらいからお一人ですか。65まで18年間ご主人を介護されてきたんですか。
- K：そうです、そうです(k-3)
- ・調：ご主人はいつ…
- L：あのね、平成2年…2年ゆうたら十何年なります？
- 調：18年…だいたいぶ経ちますね(1-1)

- ・調：その、今一人暮らしをされて何年目なんですか？
- M：もう何年になるかしら、ここに来たのが…65の時だから、でここの家にずっと
いてるから、もう20何年かやね。23年ねえ。65やから、85で20年でしょ。25年
くらいかな。
- 調：25年。(m-1)
- ・調：うーん。お母さんはいつごろ、いつごろに亡くなったんですか？
- N：えっと60何年や。58年か、昭和58年で
- 調：はい。
- N：死んだ。
- 調：あ、そうですか。
- N：それからずっと一人や。(n-2)

以上は「単身生活になったきっかけ」に関する語りを抽出したものである。「死別」が最も多い「単身生活になったきっかけ」であるが、その捉え方は様々である。

①離婚をきっかけとした単身生活

離婚を機に単身生活になったAさんの「辛いっっちゃうよりもスツとしたねえ」(a-3)という言葉からもわかるように、辛い時期を過ごしたことはあるであろうが、時間の経過とともにその感情は変化を辿る。Aさんは、14年前に現在の建売の住居を不動産屋の紹介で購入して単身で暮らしている。現在の住まいに引っ越す前の話し、すなわち対象者が語る過去よりさらに遡る過去のAさんについての話題を求めると、過去の話題を避けるように、そして私たちの関心をそらすために、Aさんは私たちに飲み物を勧めてきた。「恥ずかしい」(a-2)という言葉が示すように、Aさんにとって「離婚」という出来事の詳細を調査員に話して良いのか逡巡しているように思われる。後に、(離婚された)旦那さんが亡くなった話をしてしている際に、Aさんの方から続きを話し始めるまで逡巡は続く。調査員との会話、また時間の経過とともに生成・構築される関係性(それは決して深い関係性ではないが)によってAさんの過去への扉がすこし開かれる。Aさんにとって、「離婚」という過去は決して容易に話せる内容ではないはずだ。離婚という出来事を「辛いというよりも、スツとした」と語るAさん、墓参りには「一切首、顔

は出さない」(a-3)というAさんの強い思いは伺える。

②死別をきっかけとした单身生活

死別をきっかけに单身生活に移行した方はどうであろうか。21歳で結婚して、64歳で死別を経験し单身生活になったBさんは婦人会、町内会の活動などに活発に参加をされてきた方だ。50年にも及ぶ山科での生活で築いた地域関係において、Bさんから悲愴感は伝わってこなかった。しかし、単身のきっかけである「死別」について尋ねるが、話題は戦争経験に変わる(b-1)。Cさんは、離婚を経て再婚したパートナーと59歳の時に死別している。壮絶な過去の経験を聞かせていただいた。それから10余年人の為に活動(老人会、婦人会等)に注力してきたが、70歳当時の経験した金銭トラブルを契機に、「根性悪なりましてん」(c-2)と語るように、素直に生きることをやめたようだ。Fさんは20年前に旦那さんと別れた(注：理由は不明)。「あるところで会って、あるところで別れた。」(f-7)と言うように、話に触れるのをとても嫌がる感じが聞いてとれ、「もう一人で、一人で最後の道いかなしよーがない。」と話を締めた。Jさんは12年間单身生活をしており、翌年に旦那さんの13回忌を迎える。俳句や書道、水彩画など多彩な趣味を持っており、これを「何でも欲があるから、いろいろやって…」(j-4)と話す。そんなJさんは、「そりゃやっぱし頼れるのは主人(中略)やっぱり子どもと主人と違うわね」と旦那さんの大切さが亡くなってからわかったと語り、「もうちょっと大事にしたげたらよかった。」(j-5)と話した。

18歳で結婚した当時、山科に来るのを嫌がったKさんも旦那さんとの死別を境に单身生活となる(k-3)。そんなKさんは様々な生活信条を語ってくれた。「泣き言を言わない、強く生きる。それが私の勇気」(k-6)「お医者ばかり頼ってたらいかん。」(k-4)などがそれである。大胆にも自分から「私と結婚して責任もってくれますか」(l-2)と手紙に書き、それがきっかけで結婚したLさんも死別をきっかけで单身生活になり、その生活も18年目になる。幼いころに満州で育ったMさんは、恋愛結婚をした旦那さん(m-4)が22年前に他界して单身生活になった。Pさんも22歳で恋愛結

婚をしている（p-1）が死別によって単身生活になった。

③単身生活のきっかけが不明

単身生活になったきっかけが不明な方も何名かいた。もちろん本人は理由を知っているわけであるが、調査員の質問に対して「答えなかった」。「答えられなかった」のか「答えたくなかった」は定かではないが、本調査の聞き取りにおいて生成された関係性では話すことのできない答えであったのは確かであるようである。それを踏まえた上で、単身生活になったいきさつを見ていきたい。理由は不明だが20年前に旦那さんと別れたFさんは、「あるところで会って、あるところで別れた」（f-7）と言うように、話に触れるのをとても嫌がる感じが聞いてとれ、「もう一人で、一人で最後の道いかなしよーがない」と話を締めた。

（2）単身生活歴

表1からわかる通り、本調査における対象者の単身生活歴は平均24.3年と山科調査報告の対象者の平均より若干短くなっている。単身を続ける理由もさまざまである。60歳にして40年間連れ添った旦那さんに先立たれたEさんは、「だんなねえ、（亡くなったのは）73でしたわ。私が60いくつやから。嫁にすることもできやしませんやん。」（e-1）と語る。反面、Aさんが「子どもは子どもの世帯があるからねえ。」（a-7）と話すように、家族と暮らすこと自体を億劫に感じている人もいた。

「単身生活になったきっかけ」を語ることは過去を振り返る行為であるといえる。エリクソンの言う「振り返り期待を込めて未来を見る」行為が各人と調査員の会話を通じて垣間見られたのではないであろうか。表2は対象者の生活における信条を抽出したものである。「英知=見る」という能動的なプロセスから生成される生活信条についてみていきたい。

(3) 生活信条

＜表2＞対象者の生活における信条

	生活信条
A	子どもは子どもの世帯があるからねえ。
C	(素直になるのをやめ) 根性悪くなりました。
D	(デイなどに) 若い人がボランティアで来てくれると、感心する。私なんか今日はええかって休むけど。
F	もう、一人で最後の道いかなしゃーない。
I	規則正しく美しくの精神。
J	(主人の大切さは) 亡くなってからわかりました。
K	泣き言を言わない、強く生きる。お医者ばかり頼ってたらいかん。人には愛、また愛が帰ってきます。
L	私、度胸あったよ。
O	できる仕事はなんでもやった。

4 考察

「生い立ち」、「生活信条」という言葉をキーワードに聞き取りデータを再構成するという試みを行ってきた。もとになった聞き取りデータは、学部生・院生(計10名)が二人一組で文字通り「足で稼いだ」成果である。その成果を収集する過程で、私たちは決して机上では学べない高齢者の実態を学んだ(そして肌で感じた)。考察を加えるにあたって、単身高齢者の多様な実態を収束的にまとめる難しさ、という壁にぶち当たったということを記したい。Schön(2001、2007)はその著書において実践における(この場合は調査における)「厳密性か適切性か」という問題を提起し、「収束的な科学」と「拡散的な実践」と分けて考え、前者は矛盾を「ジャンク・カテゴリー」と後者は矛盾を「混乱しぬかるんだ低地」であるとして、「泥沼のほうには人間の最大の関心事がある」と述べている⁷⁾。その意味において、収束的に調査結果をまとめるというよりも、拡散的に問題を提起していくことで考察として

7) 詳細は、Schön(2001:61-70=2007:38-47)を参照。

いきたい。

調査結果を振り返り、単身に至った経緯は多様であるが、「死別」が最も顕著な経緯といえる。しかし、4名の対象者が「その理由を語ってくれなかった」ということに、また意味があるとも考えられる。過去を語るということは決して良い思い出ばかりを話すということではない。本調査において聞き取りを実施した16名も当然ながらそれぞれが違う過去を持ち、私たちはその過去における対象者の「楽しかった」、「辛かった」、「面白かった」、「充実していた」、「悲しかった」…というような経験と向き合った。調査を通じて高齢者は決して一様に孤立しているわけではなく、孤独なわけではない。東洋経済（2008）が「家族崩壊」として急増する独居高齢者の現実を特集した記事においても、「負の側面」、「孤独、孤立の側面」を強調したものとなっている。しかし、実際には私たちも調査前にイメージしていたこれらの「単身高齢者の実態の予想」と「単身高齢者の実態の現実」は異なり、得られた「多様な高齢者の実態」という結果は良い意味で期待を裏切られたとあってよいであろう。「増える別居、減る同居」という社会情勢によって単身高齢者の増加、また単身高齢者の増加に対して生じる問題への対策は可及的速やかに提示されなければならない。しかし、単身高齢者の生活実態というものをどれだけ把握し、これから彼ら／彼女らのニーズをすくい取って行くのであろうか。

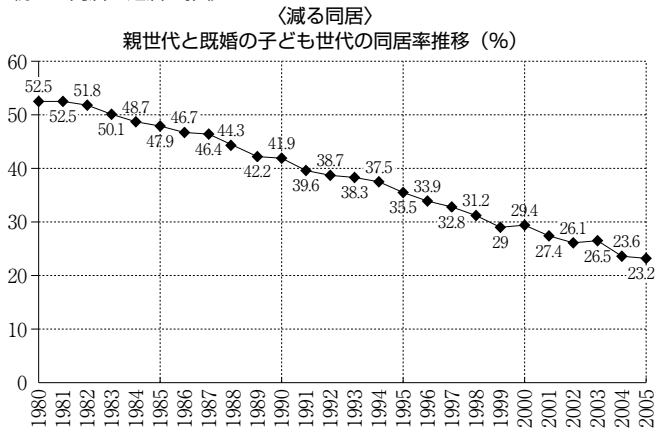
今年は折しも、後期高齢者医療制度、通称「長寿医療制度」が施行された年でもある。それにより75歳以上の高齢者は「後期高齢者」、75歳未満の高齢者は「前期高齢者」と区分けされたわけである。私は肌で感じた高齢者の生活実態を垣間見ることで、この処遇の二分法に疑問をもつとともに、包摂性の高い自然科学の射程に収めることができない高齢者の生活の多様性という現実の一端を本調査によって示せたのではないかと思う。「介護の社会化」、「在宅介護」が提唱されて久しい。社会において介護を担い、それを在宅＝地域において実施していくにあたってのヒントを、私たちは対象者の「語（ら）れなかった過去」に光を当てることを今後の追調査において明らかにしていくことを今後の課題としていきたい。

〈参考文献〉

- Erikson H. E., Erikson M. J. (1997). THE LIFE CYCLE COMPLETED (=村瀬孝雄、近藤邦夫『ライフサイクル、その完結』みすず書房、2001). W. W. Norton & Company.
- Schon, D. A. (1983). *The Reflective Practitioner, how professionals think in action* (=佐藤学、秋田喜代美訳『専門家の知恵』ゆるみ出版、2001。=柳沢昌一、三輪建二監訳『省察的实践とは何か』鳳書房、2007). Maurice Temple Smith Ltd.
- 牛窪恵. (2008.10.25). 急増する独居高齢者一人で生きる老後の現実. 週刊東洋経済, 100-101.
- 佐藤郁哉. (2006). 定性データ分析入門—QDAソフトウェア・マニュアル. 新曜社.
- 山科区第2期地域福祉活動計画策定委員会. (2008). 地域に一人で暮らす高齢者の問題—単身高齢者の生活実態に関する調査結果. 山科区社会福祉協議会.
- 大谷順子. (2006). 事例研究の革新的方法. 九州大学出版会.

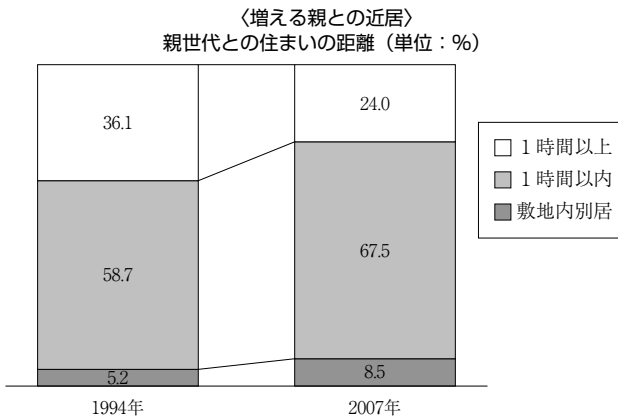
資料 1

親との同居・近居の推移



(注) 65歳以上の者の世帯類型を「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」、「子ども夫婦との同居」、「配偶者のいない子と同居」、「その他の親族と同居」、「非親族と同居」に分けた場合の「子ども夫婦との同居」が占める割合である。

(資料) 厚生労働省「国民生活基礎調査」



(注) 20歳以上の既婚者で自分または配偶者の親が別居している者を対象に、自分または配偶者の親のうち最も近くに住んでいる者の距離別割合を示したものの。回答者は1994年2,345人、2007年2,365人。

(資料) 内閣府「国民生活選好度調査」

(出所) 内閣府「平成19年国民生活白書」

資料2 「生い立ち・生活信条」に関する語り

Aさん (81歳、女性)

①

調：きっかけっていうのは何かあったんですか、ここに住まわれる

A：ああ、やっぱり不動産屋さんに行ったもんで。ほんで不動産さんが案内してくれはって、ここに建つからどお？って。駅も近いし。

調：元々、元々アパートを経営してらっしゃったっておっしゃっていた

A：はあ。あの一あのなんちゅうの、1本道のね、

調：はい、もう近くですか？

A：もう今は普通の大きい住宅が建ってますけど

調：ああ、そうですか。

調：ずっとそちらに住まわれてたんですか？

A：それからねえ、娘がころあわないもんで、で、あの、転勤があってね、

調：うん。

A：で、あの一子どももできひんからね、いっちょそれで大阪に行きましてん。山科離れたいって娘がゆうから。

調：はあはあなるほど。

A：で、大阪で娘の近くに家買って、で、あの一そこで、何年いたかなあ、3年くらいいましてんけど、やっぱり私も内職をずーっとしてましてん。内職はも一、子どもが小学校の時分から内職をずーっとしてました。

調：何十年ですなえ。

②

A：私はもう、えっと、53歳の時に離婚してますねん。

調：ああ、そうですか。

A：ちょっと

調：あははは。

A：どうぞ、飲んでください。

調：え、いいんですか。

A：はい、どうぞ。

調：ありがとうございます。

調：すいません。

調：これまさかわざわざ、あれですか？

A：はい、どうぞ。

調：申し訳ないです。

A：どうぞ。だれがいる訳はわからへんからね、私はいつも

調：ははは。すいません。

調：ありがとうございます。

③

A：やっぱ、旦那もいるしね。主人は、ほんで今年で、先月の8月の5日で6年になります、亡く

なって。

調：ああ、そうですか。

A：はい。で、離婚したのは私、53歳の時です。調停離婚してます。

調：はい。

A：3回裁判してもらって。

調：はあ。

A：もう離婚して主人も死んだけど、その相手の方もおに亡くなってるみたいですしねえ。

調：はあー。

A：まあ一別れるってゆうのは子どものほうから請求したんですねん。

調：ふんふんふん。

A：別れてほしいって。子どものほう。

調：あ、そうなんですか。

A：私はほんで、別にええわと思ってたんやけどね。子どもは別れてくれてゆうてね。

調：はあー。

A：やっぱり子どものこと考えるとね。

調：はいはいはい。

A：だから、で、あの一。協議離婚は絶対にダメよって。

調：では、53歳から一人暮らし、ということですよ？

A：そうです。はい。

調：やっぱそのときのことが、あ、もう辛いですかね？辛かったというと。

A：そうやねえ。まあ、辛いつちゅうよりもスツとしたねえ。

調：ああ、そうですか。ほおー。

A：なんでやいうと、あっちにも子どもが出来ましてね。

調：はいはい。

A：私はおうたことないですけど。

調：ああ、そうですか。

A：ふうん。

A：連絡はちよくちよく来てたっていう感じですか？

A：んーなんか、Aの、あの連れの弟と私、おない年ですねん。そこへようちょこちょこと

調：そうですか。

A：私は全然管理しとりません。でも、あの、子どもはね、あの自分のてて親やから年忌とかそういうのは通知が来たら行ってます。お墓参りとか行ってます。それで行って、私はもう、行って欲しいって言ってますねん。私は行けへんからね。ちゃんとおおきにしていって欲しいって言ってね。で、ええんやって言って、墓参りやらそういうことは3人でやっています。で、私は一切首、顔は出しません。

調：ほおー。

A：そういうようにしていますねん。

④

A：あの一、私、あの一前、〇〇（地名）にいましたんでね

調：はい。

A：あの一、疎水の近くのねえ、安祥寺の近くの。せやから〇〇（地名）に近いんです。

調：はい。

A：せやから、あの一、なんちゅうのかなあ、東海道線のトンネル越えて、疎水の近くにいました

んや。

調：はいはい。

A：今、あの、〇〇（人名）だ、〇〇（人名）さんっていう大きな家がありますんや。

調：うん、うん。

A：そこのとこに長いこと、20年ほど住んで、結婚してもそこで住んでました。

調：はいはい。

A：ほんで、あの北笠の方にちょっと、あの、おじ、あの一、おじいさんを、主人の親が、おかあさんは死にはってんけど、おじいさんがいはるからね、ほんで娘がまだ3人いたしね、ちょっと家も狭いから、で、〇〇（地名）ちゅうとこで土地買って、であの、主人は建築の方にしてたから、倉庫もあるし、

調：うーん。

A：で、あの、おじいさんの離れもあるから

調：うんうん。

A：土地を108、100坪こうて、道路も買わんならんから108坪こうて、

調：あー。

A：ほんで、そこで、おおかた10年ほどいましたねえ。

調：あーそうですか。

A：で、そこでおじいさんも亡くならはって、

調：んー。

A：で、娘も2人片付いて、そしたら6人いたのが3人になってしまっただけねえ。

調：んー。

A：主人と私と、で、下の娘と。で、もう、そんな

調：んー。

A：で、ちょっと、まあ、案外大きな家建てたもんやからね、

調：うん、うん。

A：ほんで、もう掃除もかなわんから

調：うん。

A：それでその土地を売って、そんでアパートを建てたんですけど。

調：ほおー。

調：そうですか。

A：うん。そんなんです。

調：今、一人暮らしで

A：うん。

⑤

A：私ら、よう、ねえ、戦争時代通してきたからね。戦争真っ最中に青春はなかったからねえ。

調：そうですねえ。

A：うん。私、二十歳で結婚したからね。昭和の年号と一緒にすねん、私、歳は。

調：ふーん。はあー。

A：ふん。昭和、で、昭和、もう、20年終戦でしょ？ほんで満でゆうて、ゆうと20年で、あの、19ですな。で、数えてゆうと20年。ほんで終戦の年が20年でしょ？

調：ふんふんふん。

A：ほんで数えて20年。その年に結婚したんですな。

調：ほおほおほお。

A：9月の30日、9月の30日は結婚ですね、私は。

調：はあ。

A：あれ、8月終戦やったんやね？

調：8月14、15？

A：でも、あの、主人はあの、その兵隊とかそういうのは関係のない人でしたからね。やから大正15年生まれやからもうあの、数えていうとあの、年号とずっと一緒ですねん。

調：うーん。

A：満で言うの一つ下。

調：でもこのテレビ以外に何かあったらいいんですけどねえ。

A：そやねえ。

調：あー、どんな方がいいんですかねえ。

A：わからんねえ。

調：一人、一人でねえ、

A：せやなえ。

⑥

A：ねえ。やっぱ、女は長生きする。長生きしますよ、女は。

調：そうなんですかねえ。ははは。

A：ははは。

調：女性の方は長生きしますからねえ。

⑦

A：そうでなかったらねえ、私はもう年金だけで食べてますのでねえ。収入何もありませんからね。もう子どもの、そのそういうの、援助はしたくないしねえ。そういうこといっさいしたくないから。子どもは子どもの世帯があるからねえ。

調：なんとかねえ、元気でいてもらえるような

Bさん (88歳、女性)

①

調：この辺の地域のお偉方とお付き合いとも長いんですね、そしたら。

B：婦人会で、もうずっと役員してますしね。昔あの戦争で、軍隊行ってたでしょう、息子が生後9ヶ月のときに入ってね。ほんであの新潟県の上越…信越化学じゃなくて、ステンレスっていうところに会計で入ったんですよ。4年間いたもんですからね、そろばんですけどね、そのそろばん、計算するのが好きで好きでね、老人会の町内会ので会計もしましたよ。

調：お仕事はもうその4年間と、それから、あとはされてるんですか？Bさんは。もう全部専業主婦？

B：和裁をね、あれだから…和裁をずっとしてたんですよ。その、上級のそこらのあれじゃなくてね。持って来る人は室町のお姉さんの妹さんだか、妹さんががついで、大阪の…とか、高級パーダとか、そんな人のね、あんなんばっかりずっと、2、30年。持ってきてね、取りに来て、置いてきてくれるんですよ。

調：結婚してから子供さんできてからも和裁の仕事はされてたんですか？

B：そうそう。昔はそんなに就職しなかったんですよ。それでうちで和裁してね、そしたら、納伴期だけね、ちょっと、10キロか、2駅ぐらい離れたとこの山の中でね、娘さんにお裁縫を教えるで

しょう、それをね、青年学校って言ってたんですけどね、…12月から3月までね、3年間やっています。そのあとすぐ結婚したもんです。

調：結婚は22歳？

B：22歳で結婚した。あ、…息子と22ちがうからね…えっと…

調：結婚後すぐ生まれたんですか？

B：一年できなかつたから…

調：結婚されたのは22？20歳？

B：21や。

調：21。で、ご主人と結婚されて、ここの山科にこれらたんですか？

B：私、○○（地名、関東）の人間でね。

調：標準語ですよ。

B：うん。ほんでね、私はね結婚する時にね、○○（会社名）のね、研究所行ってたんですよ、で、喜んだんですけどね、なんか…ちょっと自嘲心が強いっていうか、自分の尊敬してる師匠さんがね、ちょっとやめたら一緒にやめたりあれしたりしたんですけどね、もうそしたら、生後息子が9ヵ月で主人に赤紙がきて、そして丸4年行ってたんですよ。ね。依頼もきて、息子の写真を写真屋さんで撮って送ることもできたんですけどね。もう3年ぐらいから全然行く先不明になっちゃって、南方で行くっていう話だけで。ほんでもう死んでるか生きてるかわからなかったわね。南方でね、日本に帰る一番船がね、8月の31日にね、30日に出る船がね、あったんですけど。前の日ちょうど器具合わるくなくて熱出したんでね、南方の一番船で帰ってきたんですよ。

調：まあまあ、戦争のね、うん…経験されましたね。

B：犠牲者ですよ。もう生後9ヵ月で主人がね、お父さんが行っちゃって、帰ってきたらもう4歳でしょう。もうね、こんなにして、誰だっというような顔してるんですよ。そんなですけれどもね。

調：ご主人とお別れになった…あの、亡くなられたのは？

B：あのね、69歳でね、亡くなりました。

調：ご主人のほうが69歳ですか？

B：うん。昭和何年だろう…58年くらいかな？59年？

調：Bさんは何歳でしたか？

B：64歳。

調：5歳違いですか。

B：そうそう、5歳違い。…59年か。

調：61歳というのと、・？

B：私64歳で…58年かな？

調：もう亡くなって20年ぐらい？

B：25年。この間ね、8月22日なんですけど引き上げてね、6月の22日に25回忌したんです。…ねえ、戦争の事みな、全然知らへんわね。

調：おばあちゃんは知ってます。

B：おばあちゃんが？あ、そうですか。

調：91です。

B：91？じゃあちょっとしか違わないね。お元気にしてはる？

調：はい。

B：私もね、まさかね、こんなになるとは思わんへんくてね、もう、カラオケ…もう、あらゆることしたんですよ。もうね。

調：婦人会の役員なんかは、この山科の婦人会ですか？この辺の？

B：うん、山科の婦人会。もう世話役でいうかね、もうそんなんでもさ。詩吟はもうね、52歳の時からね、10年間習ってね、それももう会計もったりあれしたりしてね、しましたけど。それから今度はやめて、コーラス。で、そんなんは別に出てみんなで歌ってたらいいことですからね。京都公会館で発表会なんかもありましたしね。煎茶も一緒に習ったりしてたんですけどね。

調：もうこの近辺には、もう山科には、お知り合いの方ばかりですね。

B：うん、そうです。だからね、もう隣の奥さん9つ違うんですけどね、もうここらみんな近所ですとね、ここね、50年いるでしょう。隣組もね、ほとんどね、一緒にだいたい売り出しはったでしょう。一緒に建った家でね、50年でも、隣ぐみの家でもね、ほとんど変わってないんです。

②

調：ここに暮らして50年ですよ？

B：うん。50年。

調：50年の家ですもんね。

B：それでね、最初はね、ここ平屋だったんですよ。

Cさん (82歳、女性)

①

調：ご結婚はおいくつのときにされたんですか？

C：あの人、33で来はったんどうす。

調：お母さんがいくつのとき…？

C：私が33のとき。婿さんが37歳ぐらいやったね。

調：その方は再婚で、お子さんがいらっしゃったんですか？

C：そうそう。私も初めてやありゃしませんで。

調：あ、そうなんですか？

②

調：別れさせられたんですか？

C：(頷く) もう、もう村へ帰らせ言うて人形みたいなもんでした。しつても素直な子になれよ素直な子になれよ言うて、70歳まで素直どした、私も、人から何を言われても。主人が私59のときに亡くなって、で、ここで一人になりましたやろ。ほしたら老人会や婦人会、ほれから母子福祉、みんな使い歩きさせられて。

調：ずっとそういう活動されてきたんですか？

C：そうどす、人のことばかり。ハハハ。ほしたらまた、主人の生命保険があったから昔よその子預かってて、その子が泣いてなんやら泣き落としにおうて、保険が入ったん見てるから。一週間のひと七日ふた七日いうてお勤めに来てくれますやろ、昔は、そやしここでしてたんやけど、ほしたらその子がお金貸してくれ言い出して。それから私根性悪なりましてん。ハハハ。もう昔のCと違うし言うて。もうどこの親戚行っても「C素直になれよ」、あっちのおばあさんも「素直になれよ」言うて、もう絶対親に服従どしたけどなあ。もうその人がもの頼まはっても嫌っていうことが言えまへんねん。ほんでふんふん言うてたら、3つも4つも…。

調：役が回ってきたんですか？

C：そうどす。畑してたりしたら手が動かんようになって、ほんで今みんな若い人「無理せんときなよ、かなんと思たらやめときよ」て言うてますねんけど。私が気がついたらもう遅いどした。もう人に「Cちゃんして」言うて絆されて…。ハハハ。

調：お仕事はずっと何をされていたんですか？

C：仕事はね、あちこち行きましたよ。終戦前は〇〇（会社名A）にいましたし、でそのあと〇〇（会社名B）行ったり山科行ったり、ほなもう終戦なったで〇〇（会社名C）さん、〇〇（会社名D）っちゅうのがありましてそこへ11年間行ってそこが最後でした。

調：じゃあ何歳のときまで？

C：あそこはね、35歳で定年でした。

調：そうなんですか。昔は早いですね。

③

C：おじいさんはね、それこそ私ほんまに忘れられん、私が33でおじいちゃんが亡くなった。ほんでおばあちゃんが42で亡くなった。男の厄も女の厄も皆私が引き受けたんです。もうそれまで33までは一人やし、かたつば年寄りやから、もうみんな男の代わりみたいなん…まあ、ね、これもほんまに運命どす。ハハハ。まあ、戦争のおかげもあつたけどね。戦争でおばあちゃんの身のほうで許婚みたいな人があつたんが満州行かはって、ほんで満州に来てくれて手紙があつたら、「そんな一人しかない子をそんなとこにやられん」ちゅうて。ほしたら今度はおじいちゃん寝てはってせんせいが往診来てくれはって、ほしたら「お母さん、うちからCちゃん学校にやりますさかいに、看護婦にしてくれ」ちゅうて言わはつたん。こんな戦争の最中に看護婦したらいっぺんに命ない。みんな親の意志で。ほんで今考えたら、戦争のおかげでこうなったんやなあ、誰恨むこともないなあと思てますけど。もう戦争のおかげで全部ぶち壊しでした。自分の思てことがね、みんな出来ひんでね。

調：そしたら、35歳でお仕事辞めてお母さんの看護されて、ずっと寝たきりやつたんですか？

C：そうどす。こうしてご飯食べさせて。ほして、目も悪かったで、もう手も神経痛やらなんやらで、今日まで、その歳になるまで世間の人と話聞いてると母の日やなんやいうて草履やらなんやいうてもらうよりも、具合が悪くなったときに診てもらうんが1番嬉しいて言わはつたから、それをもう聞いてたから、私は仕事辞めよ思て。所帯苦しおすがな。

調：そうですね。給料もなくなりましたもんね。

C：そうどすねん。私給料ありやしません。」

④

調：ご主人はおいくつとき亡くなられたんですか？

C：63どしてん。私59。ほしたら動けるさかい皆がこれしてあれして言うて。私はここに小さい時分からいるから馴染みがありますやろ。皆使い歩きさせられて。いっぺん万歩計してしたんどす。ほしたら部の新聞配らなあかん、向こうのほうまで配ってたら8千歩歩いてましたわ。もうそれでもその前はマンションの掃除行きました、2時間ほどやけど。

調：それは奉仕ですか？アルバイトですか？

C：アルバイト。同級生の人から電話かかってきて、「あんた何してんねや？」言うて「うちマンションの掃除行ってんねん。1時間500円や」「あんた1時間500円ぐらいで何してんねや！」「そんなもんこの歳になってからどっこも行くところあへん」。あっちこちいろいろなことしてきましたわ。

調：Cさんとこのお子さんは、ご主人が連れてきたお子さんだけですか？

C：だけどす。私がもう子どもできなんだんやね。昔33いうたら子どもできしまへん。

Dさん (81歳、女性)

①

D：ここに住んでからはもう40年ほどになります。

②

D：うーん。別にあれやけど、よう友達がたくさんおったからあちこち遊びにも行ったし、ほら、私一人やから、暮れやとか、家にいてもしょうがないでしょ、お正月やら。だからお友達誘って、よう海外旅行行ったよ。

調：へえ、どこに行かれました、海外は？

D：ヨーロッパ2回行ったでしょ、それからバリ島やとか、カナダとか、オーストラリア、ハワイはさ3回ぐらい、それから中国、それから台湾も行ってね。

調：すごいですね。好きなんですか、ご旅行？

D：面白いわね、そこの土地、土地の生活状況が分かるからね。楽しかったですよ

調：今は、海外行くの当たり前とか言われてますけどね。

D：ねえ、すぐ海外言わはるけど私らの頃はまだ少なかったよ。

③

D：昔に、勤めてた頃にちょっと川柳の会に入れさせてもらってたから。

④

調：ああ、そうですか。もう仕事を36年間。ご結婚とかは？

D：結婚してない。ちょうど私、学校出たんが18年。ずっと昔やわな、昭和18年。そやから今から62年前。うちらのおじいさんぐらいかな、もっとかな？

調：43？

D：そら私びっくりすること言うたらな、大東亜戦争が終わったんは、私、勤めてたもん、もう。うん。勤め先で天皇陛下の声聞いたんや。びっくりするやろ、古いやろ？ピンときいひんやろ。なあ。そんな人間や。古いねん。

⑤

D：ええなあ。私らはもうそれこそ、食べるものも着るものも何にもなかったらな。その分みんな取り返しといて。楽しんで楽しんでな。やっぱり若いってええなあ。私らわからへんなりにわあわああと過ごしてきたけどな。

調：若いときは若いときなりにいろいろあったんじゃないんですか？

D：いやいや、なかなか。

調：ピンとこないですね、やっぱり、でも。

D：言うたら、男の人って言うたらみんな兵隊さんとられた。そういう生活やったからな。残ってる男の人言うたら半分病人さんや、そうやなかったらお年よりやそんなんや。そやから、今みんなに大事にしてもらうてる。若い人にな。

⑥

D：けどそんな、福祉のほうに行こうって言うてくれはる気持ち嬉しいわ。感心するわ。

調：今からね、どんどんお年寄りの方が増えていくんでね。そこらへんもね。支えてもらった分、また支え返すっていうね。

D：頑張ってください。かなんこともあるやろうけどな。難題をふっかけられても、優しい優しい答えてあげてはるからね、みんな。私やったらいっぺんに頭きれてのになあって。そんなこともあるよ。嫌なら来はらへんかったっていいのって思うこともある。それではあかんのやけどね。それをなだめすかしてな。えらいわ。感心するわ。若い人がね、ボランティアで来てくれるのを見るとね。私なんかは今日はええか思って休むけど、ちゃんと来てくれはるからね。

Eさん (91歳、女性)

①

調：じゃあご結婚されて、こちらへですか？

E：そやね。もう京都きてから、もうおおかた、そやね…55、6年なりますわ。

調：そうですか。

E：だんなの仕事の都合でね。

調：京都へ。

E：うん。

調：山科へはその時からですか？

E：うーん、山科が…いや初めはね、〇〇（地名A）におりましたんや。〇〇（地名B）のね、〇〇（地名C）の近くにいましたんや。

調：〇〇（地名A）の方ですか。

E：悪いことばかりしてたわ。へへへ。

調：ご出身は〇〇（地名D）で…

E：〇〇（地名D）ゆうて…

調：はいはいはい。

E：田舎ですわ。

調：京都のすぐ隣ですよ。

E：そやね。昔の〇〇（地名E）の方でした。

調：はいはいはい。

E：〇〇（地名E）っていうたら昔、〇〇（地名D）ゆうて、あの、そこでしたんや。

調：それで学校出られて…

E：学校…

調：お仕事をされて…

E：いやもう、私は百姓やから。

調：ああそう…

E：田んぼばかりでしたわ。働きもせんと、田んぼばかりし。

調：お仕事されてて、ご結婚はいくつときだったんですか？

E：ハタチ。

調：ハタチ…早いですね。いや、当時は当たり前ですか？

E：もうその百姓が嫌で嫌でね。誰かどなたはんでもええから、もらいに来てくれへんやろか思ってた。それで人の紹介で見合いして。

調：お見合いですか。お父さんとお母さんはそれ（見合い）で、どうぞどうぞって感じですか？

E：うんまあ親も百姓やから。

調：じゃあ途中で結婚されて…

E：ずうーっと。だんなはよ死んで。酒が好きでね。酒で命落としてます。中途半端な死に方してね。

調：おいくつときにお亡くなりになったんですか？

E：だんなねえ、73でしたわ。私が60いくつやから。嫁にすることもできやしませんやん。

調：んん…40年か一緒に暮らしたんですね。

E：そやね。

Fさん (82歳、女性)

①

調：いつまで、お勤めはなさってたんですか？

F：平成15年。

調：というと、五年まえまでですよ？

F：今は年金暮らし。

調：お仕事は何をなさってたんですか？

F：〇〇（会社名）さんのね、お菓子の缶あるでしょ？お菓子の缶。

調：はい。

F：それ作ってたら、大きい機械あつかった。

調：へえ、そうなんですか、長いこと働いてたんですか？

F：20年くらい。

調：20年くらい。

②

調：いつから一人くらしはなさってるんですか？

F：もう、何十年も。結婚して…死んでから、そのままもう20年も。

③

調：前のとき（昔）はテレビは見れたんですか？

F：うん。

調：どんなの見てたんですか？

F：あのお、あれ…事件物とかね。

調：サスペンス。

調：サスペンス。

F：サスペンス…サスペンス、けっこうあれだからね。「七人の…」なんとか昔あったけど、「七人の…」。若い人はご存知ないわね？

調：七人の…？ですか。

調：サスペンスですか？

F：うん。…今何がある？全然知らん。

調：ねえ。…山村美紗とか？

F：うん、山村美紗。

調：京都の話ですよ、あれ。

F：今、テレビ見たくもないしなあ。ラジオでけっこうね。日曜はのど自慢があるでしょ。ほんで、夜中の3時に懐メロがあるの。今日は東京ナイトクラブ。

調：東京ナイトクラブ？

F：うん。ご存知ないでしょ？お若いから。

調：わかりません。

F：昔、そんな時分、そんな時分、踊ってた。ナイトクラブでは友達と踊ってた。
調：踊ってたんですか？へえ。ナイトクラブって、踊るだけですか？歌とかもなくて？

④

調：発表会ってなんの発表会ですか？

F：詩吟の発表会。

調：93年…

調：15年前。

F：それ、その、サイズによって、貼る場所がバラバラだけどね。

調：あっ、着物綺麗。着物とかよく着られてたんですか？

F：もういまはなあ、着物、虫食ってるかもわかんないなあ。手入れしないから。

調：ああ。

F：こんなときあったのか。

⑤

調：〇〇（会社名A）で働いてたって、〇〇（会社名A）ってあの〇〇（会社名A）ですか？

調：肌着の…

F：〇〇（会社名A）、〇〇（会社名A）。〇〇（会社名B）の下着の会社。

調：Fさん働いてはったんですか？

F：食堂で働いてた。

調：それいつのころですか？

F：ん？

調：それはいつの話ですか？

F：もう、大昔や。よわかったと思う。

⑥

F：まだ10代…

調：10代！？

F：20代…

調：年齢的にいったら。

F：20代だな。

調：20代の時に〇〇（会社名A）で。

調：20代…ということはもう60年くらい前の話。

⑦

調：旦那さんとはいつ出会ったんですか？

F：ん？

調：旦那さんとは。

F：どこで会った？

あるところであって、あるところで別れた。

調：そうですか。

調：ご結婚なされたのは？

F：もう20年前やな。…もう一人で、一人で最後の道いかなしよーがない。

Gさん (86歳、女性)

①

G：えーっと、55の退職ですからねえ。あれは

調：55の退職の時代ですよねえ。

G：はい、55で。2年しかよう生きてなかったんです。

調：あーそうですか。

G：はあ、で、51年の、今賞状見てたら51年の、あのー11月14日に他界しましたんで

調：51年、57年？

G：1年

調：51年、昭和51年？

G：はい。昭和やね、昭和。

調：昭和。

調：57歳で亡くなったということですか？

G：そうです、そうです。

調：若いのにねえ。

G：はい。

②

調：ご主人、ご主人が57歳で亡くなった時は奥さんは何歳やったんですか？

G：3つ違いですねん。

調：そしたら54歳？

G：はいはい。

調：それからずっとお一人ですか？

G：はい、一人。

調：お子さんもいらっしやらないという

G：子どもはねえ、あのー、二人も別に不自由ゆうことはないんですけど、まあもしねえ、主人がそら早よ死に行ったものですからねえ、で、やっぱり母守りしてくれてあの、私のまさかの時の、あのー、用事してくれたり、する、やっぱり誰かがねえ、あの、思てたら。あのこの子の母親がね、あのー、実家の妹の子どもですわね。母親の方がね、ほんだら、あーその私の里はね、なんか養子養子養子でねえ。えへへ。ほんでその人があのー、この子の母親を養子にもらいましてね。もう一人妹がおりましてね、その子、なんか自分の方の親元舞鶴の方にあるんですけどね、で、そんなことゆうて、ゆうてしてたんです。私、ほんであてにしてたんです。そしたら宮津の高校出てから、あのー、ふりよのん嫌やったんでしようね。

調・調：ははは。

Hさん (82歳、女性)

①

調：…それですーっと京都にお住まいなんですか？

H：京都です、はい。…それからずーっと習いもしてなかってねえ、で30歳ぐらいになってまたねえ、あのー…花柳流というねえ、ところでねえ、…うん友達がねえ、行かはってねえ、来い来い言わはるしねえ、…私はもうそんな習わへん言うてんのにもーう来い来い来い来い言わはるし、ほんで行ったんですねん。…ほでー、もう（3秒程間）すぐに辞めましたけど、5年、…5年も行っ

てたかな？なんか…会があるとねえ、今度は出んならんのです…ね、それがかなんし。(写真を見て)…これ舞台ですねん。

②

調：ご主人とは、…どこで、お知り合いに…なられたんですか？

H：(笑い) 主人はね…私もね、再婚してるしね…一番最初はね、会社でしたよ。〇〇(会社名A)行行って…

調：ああ、お勤めに行っておられたんですか？

H：うん。〇〇(会社名A)勤めてた時に、その時に、おなじ会社のね、勤めてはった人と、結婚したんですねん。最初は。それで、5年して離婚して、うん、それからもう1人でねえ、10年ぐらいたんですね。…それからまたねえ、再婚して…

調：再婚の時期は…お幾つぐらいの時ですか

H：3…え、いくつやろ(3秒程間)…あれー…10年ぐらい1人で…35か。35から。また再婚したんやね、うん。ほいで、…(3秒程間)それですと、そのままになりますね。

調：その旦那さんとは…お見合い…ですか？それともどこかで…

H：いやいやあのう…勤め…

調：その勤め…お勤めは、いつからいつ…

H：あのねえ、(2秒程間)…あれいつからやったんやろ…28やったかいな。…28から…行ったんやね。ほんで35で、今の主人と結婚したんですわ。そこで、知りおうて、うん。手描き友禅行ってたからね。…手描き友禅でね。着物ね、あの一、紋付とかそんな、裾模様。裾模様のね、あの一、ずっと絵え描く言うたらちよっと、…あの一、塗るんやね。…それをねえ、あの一、彩色って言うんですけどね、あの一、筆でね、はけとか筆でね、ずっと、裾模様をね。あの一、結婚式に着物、黒でね、お母さん方が着はりますやろ、黒でね、裾模様ありますやろ黒のね、紋付の…

③

調：お子さんはいらっしゃるんですか？

H：子どもねえ、女の子が2人いるんですわ。うん。今一、もう一…いくつかな？…58…57か。57と59かね。2人いるんですわ。女の子がね。…でももう別れてますので会い、…会うてません。

調：ああそうですか。

H：うん。…もう小さい時にね、別れた…

調：それは、て言うことは、前の…一度目の

H：前の主人の子どもです。うん、うん。子ども2人いたけどね、あの一、別れたんです、うん。

④

H：ほいで、あの一、このH(再婚相手)とねえ、その、手描き友禅ねえ、私が習いに行つたところでね、会うて、ほいで、結婚してくれ言われてねえ。…で私もねえ、この主人が歳いってたんですねん。あたしが30…

調：年上…の方ですか？

H：うん、私が35…でしたやろ。でこの主人がもう、50…55・6やったかな。なんかね…20程違ってたんですよ。ね。そやから私嫌やしねえ。…あの一、そんな歳いってはるし、歳が離れすぎてるしねえ。まあ5つぐらいならねえ…まあ…5つか7つ位なら辛抱できるけどねえ。あーんた、じゅう…19か…、なんか20程違うたしねえ。歳いってはるし、そんな嫌やしねえ…嫌や言うてたんやけどねえ、もうどーうしても来てくれ来てくれ言わはるし。んで、合わせて、あの一、おばあさんがいはったんです。あの一、おばあさんてお義母さんね。そのお義母さんもう80でしたんや。で目くらで

したんや。目くらでもね、あのー、お米も量はるし、ご飯も炊かほるしね、何でもしはるんで、お茶碗も洗うしね、手探りでやらはる。もーうね、目くらやったら勘がええんですわ。もう勘でやらはんねん。

I さん (55歳、男性)

①

調：よう運転したくなりますか？

I：うん、今体悪くなったし、まあ、たまに夢に見るけど、ほんでも…

調：運転しなくなってから何年ぐらいなんですか？

I：えーっと、バス降りたのは、まあ…実際に降りたのは63年か4年ぐらいかね、昭和の前。

調：ということは、20年ぐらい前ですね。

I：うん。ぐらい前。だけど、たまにいうんか、あの…「昔学校に行つてるときにいつも乗ってました」いうて、学生さん、…その当時の学生さんとか、に、声掛けてもらったとき、「ええ、こんな人が乗ってたんや」とかい。

調：ああ、向こうは覚えてはったってことですか？ああ。

I：うん。

調：ああ、なるほど。

②

調：今一番、なんか、楽しみにしてらっしゃることっていうと、何か…？

I：今楽しみなあ…何かなあ…極端に、まあ昔なら一日500人とか1000人ぐらいの顔見てたのが、ここにいたら、ほとんど、ヘルパーさんか、…あの、数人の顔しか見ないけど、まあその点でいくと、まあデイに行つて顔が見えるし、おしゃべりもできるし、昔の話も聞けるし。

③

調：同じぐらいの歳の方とは、交流する機会って…？

I：うん…案外そうでもなくて、病院の友達とかみな年上が多くて、…まあまあ、病気の話したり、「こんなんってんねやけどどうやろ」って、よくしゃべってるから、まあ、僕の経験なんかたいした事ないけど、あの、「自分で心配してても仕方がないんで、なるようにしかなれへんから大丈夫だよ」とかい。止まればわかるから、心臓って。

④

調：なるほど。じゃあ大体一日の、こうサイクル…

I：うん、規則正しく美しくの精神。

調：ヘルパーさんが、あれですよ、来る時間が決まってるから、こう、規則正しくなりますよね。

I：そう。

J さん (84歳、女性)

①

調：山科へ移り住んで来られたのは、結婚してからですか？

J：はい、もちろん。結婚して山科に来たんす。そのころ戦後やからほら…

調：おいくつときですか？

J：20…数えの25歳かな。

調：そしたら…ちょうど60年前？

J：昭和20年終戦でしょ。そんで22年に結婚しました。そやけどね…

調：お見合いですか？恋愛？

J：恋愛！そんな恋愛なんかできませんあんな時分。結婚しよう思っても、男性おらへんねんもん。一番たくさん亡くなった年でしょ、きつと。あの年は。主人も軍隊行きましたし、でも体が弱かったからね、病気ばかりしてね、陸軍病院ばかり行ってたから。かろうじて帰ってこられた。そいでなかったら、フィリピンや南方行ったりしたら、だめですわ。

調：まあ幸いでしたね。

②

調：何年くらいにここ来られたんですか？

J：もう…35年ぐらい。

調：結婚して10ぐらい…10年ちょっと。

J：はいはい。

調：じゃこの辺の人はみなさん同じくらいに引越してきたんやね？

J：そうですね。ここ全部田んぼでしたんや。そいで、分からんけど、一番ここが…ちょっと高かったけどね。主人ここがええ言うて。まあね、おかげでね。また、こんなね一山科みたいな不便なところだったけど。やっぱり住んで…だしたら動かせんわ。

③

調：75歳でお亡くなり。今から何年前ですか？

J：だから12年前。

調：12年前。あ、そうか、今度は13回忌やもんな。12年前…。お一人暮らして12年ですか、そしたら。

J：はいはい、はい。

④

J：その友だちと。それから書道と、それから水彩画。何でも欲があるから、いろいろやって…(笑い)

調：趣味が多彩やね。

調：多趣味なんですな。

J：やってるけど、まともなものありませんよ。でも俳句だけはね、死ぬまでやろうと思って。まだやってます。朝日新聞に投稿して、採用されたの。(笑い)

調：おーすごい。

⑤

J：そりゃやっぱり頼れるのは主人やと思いましたね。やっぱり子どもと主人と違うわね、ね。あんまり、無口な人で、あんまりようしゃべらせえへん人やったけど、やっぱりね、気持ちはねえ。亡くなって分かりました。(笑い)

調：あーそうですか。

J：もうちょっと大事にしたげたらよかった。(笑い)

Kさん (78歳、女性)

①

調：ご結婚されたのはいつですか。

K：私はね、早いんですわ。お姉ちゃんの後についてますねん、お姉ちゃんが早く亡くなってね。私が18の時に、確か、その後に私行ってますねん、私は。

②

K：そうですね、あれですね、何がありましたかな。やっぱり、古いしきたりですかね。特に京都は。私は京都生まれです。だいからの。ずーと、ですからあの土地から離れるのは悲しかったですよ。嫌ですよ、あっちに帰りたい。今でも帰りたいですよ。

調：ふんふん、山科は田舎でしたもんね。

③

調：ご主人はいつぐらいにお亡くなられたんですか。

K：えっと、私もほけてきて、7…6、76歳ぐらいですかね、

調：まあ平均的な人生ですね。

K：そうですね、兵隊にも行っていましたから。軍隊にね。

調：15年ぐらいお一人…65ぐらいからお一人ですか。65まで18年間ご主人を介護されてきたんですか。

K：そうです、そうです

④

K：金入ってましたけど、もう取りましたよ。自分でリハビリしてるんですよ。

調：あらま。

調：ええ、すごい。

K：自分でやりますねん、お医者ばかりを頼ってたらあかん。自分でやらなるといかん。痛い痛いって言ってこもってらあかん。何でもね、古臭いんですよ。人生は、昔でしょ、戦争からの、頑張らんとあかんって。

⑤

K：かえってきたら、「お母さん」ってでてくるだろうし、「あんた探してたんよ」って叱ってやろうと思って。がははは。そのお母さんまだ70ぐらいで、ここにきて笑ってばっかり、ちっともかえらへんの。お父さんどないしてるんやろうか。私はほがらかのは好き。あのね、人間はね気持ち、こうなんぼでもなる。それはねもうそれと思ってたらいいの。いい言葉。ありがたい仏様に新陳してるでしょ、それも大事、祈ることも大事。あのね、私〇〇(宗教名A)の

調：これでしょ、(十字架を書く姿)

K：私ねこれはしませんの。ただ、言葉だけ、とてもええ教えをしてくれるんです。一週間に一回きてくれるんです、一時間、

調：礼拝されるんですか。

K：話、話。これはしませんで(十字架を書く)、〇〇(宗教名A)は口でいはれる。

調：〇〇(宗教名A)は何人ぐらいいるんですか。

K：話は、ここの土地は、今たててますけど、40人、50人にぐらいるんじゃないですか。信者さん。私ははじめはしんどかった。それどころじゃなかった。お父さんのね、まだ死んでからね、Kにいつ

ぺん、あの話だけでも聞いてみてはってでも話何かわからしまへんから、ありがたいことが。向こうに行っても疲れて寝てしまって、「途中で帰るか」って「はあ、帰ります」ってのを15年続いてまんねん、この〇〇（宗教名A）をね、

調：やっぱり仲間がいたからですか。

K：そうです。支えてくれはる、みんなが支えてくれはる。助けてくれる。困ったことがあったら何でもいえる。実はこうやっていったらね、知らぬ間に勇気づけられた、今度は自分が人に愛を示さなあかんって。そしたら、また愛が戻ってきてくれるんです。今、それです。みなさんが回りの人がよくしてくれはるんです。ありがたいことです。どの神も一緒。神は一つ。

調：そういった教えですか。

K：やっぱ、私もとは〇〇（宗教名B）ですさかい、門徒はね。京都はね。それはそれですよ。

調：それは許されているんですか。

K：そうですよ、許されるも何も私が許してまんねん、そうでなかったら私やめてます。はっきりしてるんです。

そういったら、そんなことKふたこといわんとってって言われまして、一緒についてきてますでしょ、演説しますでしょ。

調：説教ですか

K：説教ね。〇〇（宗教名A）のね、ええこといってますでしょ。それには行きますけど、始めは眠たかった、あくびばかりで。今はねちゃんと、真理。真理ってのが最近わかってきました。この15年の間に、お話を聞かせてもらって、信仰させてもらってよかったって思います。別になんぼくれとかなんもいわれしませんし、一銭もなしですよ。

調：この辺にも、お友達もそういう…〇〇（宗教名A）の人は？

K：このあたりは〇〇（宗教名C）が多いです。

調：ああそうですか。

K：〇〇（宗教名C）さんが多い。

調：みんな宗教ですね。

K：宗教さんです、それでもね、キリストさんもやっぱり宗教さんですしね、ねっ、あの一なんだったかな。わっ、最近頭が悪くなってしまって、そんなんでね、自分でね始めはいやかっただですけど、信仰させてもらってよかったなって。ええお話をね聞かせてもらって、そうする心が開きます。そして楽しくなる。それは自分でつくらな、誰も持ってきてくれません、自分がそれを心を作る。それがこういう人になります。

調：ああ

⑥

調：今が青春ですもんね

K：そうですよ、絶対ね苦労したことはいわない人には、泣き言を言わない、強く生きる、それが私の勇気ですよ、息子もねお母さんには勝てないって

⑦

K：迷惑をかえたらあかんって。人に迷惑をかけることが一番悪いことやから。そうして、私いつもよういうてるんです。よくわかってる。息子の、私が教えたこと、若いころにね。ね、上の人をみたらね、年とったら頭を下げなあかんって。米のほうをみてみって。実りがついてきたら、下がってきますやろ。そうならなあかんって、人間は。いつも、こうしていばってたらかんって。米の穂と一緒に、上になればなるほど、頭をさげなあかんって。心のね、それです。

調：実る穂の頭をさげん、稲穂かなって

K：それに愛、人には愛。また愛が返ってきます。嬉しいですよ。いいことね、ありますやろ。結婚式、私が嬉しくてね。孫の結婚式ね、嫁さん8つ上ですんねん。へへへ。8つでも10でもかまいません。

Lさん (87歳、女性)

①

L：1人ですけども。

調：ご主人はいつ…

L：あのね、平成2年…2年ゆうたら十何年なります？

調：18年…だいぶ経ちますね。

②

中国行ってろくな男おらへんって。でも私これは日本は戦争に負けるなって思ってね。死ぬかもわからんしっておもって決心したん。ほんで思い切ったのところに行って手紙かいて“私と結婚して責任もってくれますか”って書いたんよ私。

調：笑う

L：私度胸あったよ。太陽がサンサンとしてね、私はもう日本に帰らないって。あれはね、今やから言えるけど相当大胆やね。

調：大胆ですね。

L：そうでしょ。

Mさん (91歳、女性)

①

調：その、今一人暮らしをされて何年目なんですか？

M：もう何年になるかしら、ここに来たのが…65の時だから、でここの家にずうといてるから、もう20何年かやね。23年ねえ。65やから、85で20年でしょ。25年くらいかな。

調：25年。

M：25年か6年になるかな。

調：一人暮らし、ここに来られる前はどこに住んでられたんですか？

M：〇〇（地名A）

②

M：私ね、若い頃はね、あのなんや、〇〇（会社名A）の会社で。

調：あっそれでそこに〇〇（会社名Aのマスコット）ちゃんですか？

M：あっそうそうそう。ははははは。

調：はあ～

M：宣伝販売の仕事してたの。

調：はあ宣伝

M：あちこちのね、スーパーに行ったり、百貨店に行ったり。宣伝販売。

③

調：満州には何歳から何歳くらいまでいたんですか？

M：あれは10…16から18歳までかな。

調：18歳。

M：吉林省、吉林省、いいとこですよ、吉林省は。山やらね、一番京都に似たとこ、吉林省はね。山やら川やら。後はあまり山がないからね、満州はね。

④

調：えっ満州におられて、その次からもう〇〇（地名A）に？

M：うん、それからまっ帰ってからまた〇〇（地名B）に

調：〇〇（地名B）に。

M：うん。1年ほどいて、そして帰ってから結婚したのが20歳やったかな。

調：20歳で結婚ですか？

M：25で3人居ましたわ。

調：あっもう25歳のときに息子さんは。

M：うん。3人ほど、25で3人。

調：その結婚は、だんなさんとの結婚はお見合だったりとか、恋愛ですか？

M：ううん、恋愛結婚。

調：恋愛結婚ですか。

⑤

M：お仕事は75までしてたから、私。

調：75まで！！すごいですね。

M：うん、75まで。だからもういつもね、あの、厚生年金やなんやらあるでしょう、主人が死んでもいつも自分が、主人は私と10違うてたから、10歳ほど違うてたからね。

Nさん（70歳、男性）

①

N：ほかの人と違ってな、わしは若いときに大闘争やってな、

調：大闘争？

N：あの、あれや、経営者とな、労働争議やってなあ、

調：ああ、なるほど。

②

調：うーん。お母さんはいつごろ、いつごろに亡くなったんですか？

N：えっと60何年や。58年か、昭和58年で

調：はい。

N：死んだ。

調：あ、そうですね。

N：それからずっと一人や。

Oさん（92歳、男性）

①

O：去年…、去年か一昨年か…。

調：それまではどこにいらっしゃったんですか？

〇：京都市内に。

調：市内ですか？市内の…

〇：〇〇（地名A）。

調：〇〇（地名A）、はあ…。じゃあ、ここにいらっしゃってからはまだそんなに日は経ってないって事ですよ？

〇：ここに？ええ…

調：一年二年ぐらいですかね？

〇：二年目かな？

②

調：ああそうですか（笑）お仕事はいつごろお辞めになられたんですか？

〇：この病気になる前やからなあ…。今から5年から…

調：5年？

〇：5、6年前やな。

調：ああそうですか…ご病気というのはどういった？

〇：脳内出血。

調：それまで何かしらのお仕事されてたって事ですか？

〇：そうそうそう、あの—自分のね、できる仕事は何でもやったわ。だから木工も鉄鋼の方も両方…

Pさん（69歳、女性）

①

調：ご主人とはおいくつの時にご結婚なさったんですか？

P：私が22で、主人がにじゅう…6歳はなれてたから28か。うん。

調：それはお見合い…ですか？それとも…

P：いちおう恋愛ですね（笑い）。2年…か3年程。